

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産 業 建 設 常 任 委 員 会		会 議 場 所 第 2 委 員 会 室 担 当 職 員 池 永
日 時	平 成 30 年 2 月 21 日 (水 曜 日)		開 議 午 前 10 時 00 分 閉 議 午 前 11 時 24 分
出 席 委 員	◎西口、○石野、奥村、並河、藤本、木曾、明田 (湊議長)		
出 席 理 事 者			
出 席 事 務 局	片岡事務局長、池永主任		
傍 聴 者	市 民 0 名	報 道 関 係 者 0 名	議 員 0 名

会 議 の 概 要

10:00

1 開議 (西口委員長あいさつ)

[事務局主任より日程説明]

2 案件

(1) キャッチコピーについて

[事務局主任 別紙1に基づき説明]

10:11

<西口委員長>

事務局から説明があったが、どういう形で進めていくか議論いただきたい。インパクトの強いキャッチコピーが必要である。市議会としてやってみるという思いで進めていきたい。亀岡のインパクト・強いイメージを表現するのは大事である。観光は非常に大事であり、まず観光キャッチコピーについての議論を深めていければと考えるがどうか。

<藤本委員>

「キャッチ」なので、客の心をどうつかみ、亀岡に来てもらうのかである。まず対象をどこに絞って、どういう年齢層に何をもち亀岡をアピールするのかである。亀岡のシンボルをどこにもっていか絞込み込む必要があるのではないかと。公募が一番よいと考えるが、それまでにここで検討してはどうか。明智光秀だけではキャッチコピーにならないので、「時は今、亀岡」とか「ウエルカムガーデン・ウエルカム亀岡」とか、何を売り込むかもっと詰めていってはどうか。

<奥村委員>

キャッチコピーは、1年、2年など期限を決めるべきである。観光は1年ごとに都道府県や市町村が考えているのではないかと。それは、イベントや観光PRに戦略として使っている。それがよいのか、それとも今後10年ほど亀岡のイメージとして作る方がよいのか、それをまず決めたほうがよい。例えば6～7年前に市が作った「るるぶ」では「御利益の国」である。七福神めぐりや出雲大神宮・穴太寺など、神社仏閣がたくさんあるということなのでそのようにしている。観光であれば、1～3

年の範囲で使えるものがよいのではないか。また、さきほど自転車の話があったが、亀岡は空手なので、「押忍、亀岡」とかというようなものも、オリンピックまでなら良いのではないか。

<木曾委員>

この委員会で決めるのは難しい。市の広報で募集して審査する形がよいのではないか。審査については、観光協会・商工会議所・市の担当課を含め、可能であれば産業建設常任委員会も入って審査していく形もある。広くいろいろな人の意見を聞くのが大事である。市民全体に公募するのがよいのではないか。

<並河委員>

市民を対象にした方がよいのではないか。「何を訴えるか」についてはいろいろあるが、例えば「四季折々の伝統文化のまち亀岡」「自然豊かなまち亀岡」など、網羅した形でできたらと考える。広報紙で募るのがよいのではないか。

<石野副委員長>

亀岡にはいろいろな資源があるが、1つに絞ってはどうか。以前、亀山城築城400年のイベントでキャッチコピーを使っていたのではないか。

<木曾委員>

中学生議会があるので、生徒にキャッチコピーを募集しても面白いのではないか。例えば中学生議会に出てくれた時に観光戦略について議論してもらっても盛り上がるのではないか。

<明田委員>

「何を訴えるか」について、亀岡にはいろいろあるが、「俺は丹波篠山だ」のようなものがよいのではないか。あまりたくさん挙げるより、「霧の亀岡」「祭りの亀岡」などが良いのではないか。

<西口委員長>

いろいろ意見をいただいたが、市民に幅広く募集してはどうかという意見が多い。議会としては中学生議会で募集する形もできる。市民に幅広く募るという方向については、それでよいか。(了)

<西口委員長>

奥村委員の言われた1～2年ごとにするのかについては、公募して案が出てきてから、次の段階の議論にしてもよい。議会・委員会として、これからどのようにしていくのか意見は。議員全員にキャッチコピーを聞いてもよいのではないか。期限を決めて、議員に提案を呼びかけていってはどうか。(了)

<西口委員長>

積極的に議会でも取組むこととする。テーマを決めたほうがよいと考えるが、「観光」の他に意見はあるか。

<石野副委員長>

最終的にこれは、電車などに広告のビラを貼って、皆に見てもらおうことになるのか。

<西口委員長>

行政でできる・できないはあると考えるが、当然そのようなイメージである。外国の人を含めて、全国の人に知ってもらおうということである。

<奥村委員>

行政が採用する・しないはあると思うが、議員が同じ名刺でPRしていくこともできる。

<藤本委員>

「京の奥座敷」というのは湯の花温泉のキャッチコピーか。

<奥村委員>

そうである。

<藤本委員>

今後、亀岡が売り出していくのは、アユモドキやスタジアムであり、合言葉は「共生」である。京都・亀岡というイメージを短いキャッチコピーにどう入れるのかが今後の課題になる。インパクトの強いキャッチコピーを出してもらえたらと期待する。

<奥村委員>

「観光」の他に「産業」も入れてはどうか。農作物を含めて、そういうものを入れてもよい。また「自然」は観光につながるが、亀岡の自然をうたうようなものもよいのではないか。

<木曾委員>

1～2年くらいで更新するなら、今年は「観光」とし、次に「自然」としてはどうか。欲張って幅広くしすぎるとまとまりにくく、審査もしにくい。せっかく産業建設常任委員会の中で出していることなので、今年はテスト的に「観光」で試みて、次にいろいろなものに広げていく形としてはどうか。

<西口委員長>

あまり広くするとイメージが薄れる恐れもある。集中した方がよいと考えるがどうか。

<並河委員>

よいキャッチコピーでも、行政がそれを扱うか扱わないかで価値も変わってくる。議員として提案しても、それが本当に生かされて観光振興につながっていくのか。市民に広く公募することなので当然行政が関係してくるが、行政とのタイアップをどうするのか。また、議員が出すとのことであるが、個々に出すのか、会派でまとめて出すのか決めていただきたい。

<藤本委員>

議員個人で最低1つ以上出してはどうか。また、議員は素人であり、それを審査するのは、ある程度プロというか、専門的な人も入れて審査するのが大事ではないか。

<西口委員長>

最終的に市民に広く公募することになったら、広報しなければならないので、行政は関わってくることになる。また、審査は必ずついてくるものである。議員からの意見をパブコメみたいにまとめて出して、審査対象にしてもらう形しかないのではないか。議会で決めるということになったら、市民の皆が本当にこれでいいということにならない。審査は当然必要になってくる。議会が選ぶということになれば、議会が予算を組んですべてやらなければならないことになる。市にやってもらうようお願いする形しか難しいのではないか。

<並河委員>

議員それぞれで出すのではなく、会派で集約するのか。

<西口委員長>

幅広く募集し市民1人1人の意見を聞くので、議員も1人1人出してもらう形かどうか。

<奥村委員>

産業建設常任委員会の意見として、議員もこういうことを考えてみようということで、それが採用されるかどうかではなく、議員もこういうフレームで考えていって、市民全体に募集してほしいと提案しようということを委員長は言われているので

はないか。

<西口委員長>

関心を強く持っているという姿勢をそういう形で示さねばならない。

<藤本委員>

キャッチコピーは会派ではまとまらないのではないかな。いろいろな考えがある。

<並河委員>

そうではなく、会派でいろいろ出してもらって、とりまとめをするかどうかの話である。個人でどこかに出すという形をとるのか。

<西口委員長>

会派で集めて出すだけの話なので、そういう形でもよい。

<並河委員>

そうであれば、常任委員会でこのような話になったので協力願うと会派で提案できる。

<西口委員長>

そのようなやり方でよいのではないかな。市民に広く募集をかけ、議会は議会として議員に募集をかけるという形でどうか。審査は次の段階である。実行していく方向で議会から市に申し入れをしていかねばならない。議会だけで審査することはできない。市も一緒にする必要がある。

<並河委員>

審査は別物である。

<西口委員長>

議員が作ったものを絶対使うようにとはもちろん言えない。市民の心をはっきりつかむ必要がある。

<明田委員>

奥村委員がキャッチコピーを変えていたらよいと言われたが、キャッチコピーが受けたなら変えなくてもよいのではないかな。どうしても人気がないなら次のものを考えることとして、亀岡のキャッチコピーとして受けたのであれば、それは続けていってはどうか。変えることを前提とするのはどうか。

<西口委員長>

まとめると、①市民に幅広く募集をかけてほしいということ、②議会も積極的に取り組んでいくという観点から、議員全員にキャッチコピーを募集すること、③テーマは観光・産業・自然とすることでよいか。また期限はどのようにするか。

<木曾委員>

この常任委員会だけで進めても難しい。この3月定例会で常任委員会が開かれるが、その時間の一部をいただいて、せっかく理事者も来るので、キャッチコピーの募集をするにしても何にしても、行政だけの話でなく、議会だけの話でもなく、議会を含めた組織を立ち上げてはどうかということ投げかけてはどうか。

<奥村委員>

賛成である。3月定例会で話をして、6月補正をしてもらえるくらいまでいって、年内中に募集するような流れがよいのではないかな。

<西口委員長>

組織の立ちあげと期限的なことについて意見をいただいた。こういう方向でよいか。
(了)

<藤本委員>

中学生議会の予定は。

<西口委員長>

10月頃の予定である。中学校の日程が夏休みは難しいようである。

<藤本委員>

秋ごろにはまとめないと、来年は選挙がある。他市の例を見たら、名古屋は審査にプロが入っていて一番上手である。そのような感じで審査する人を設けて選んでもらうのが一番よいのではないか。

<木曾委員>

行政と一緒にするという事は、そのようなことを含めることになるのではないか。ふるさと納税も楽天などいろいろなところに関わってもらっている。そういうところに話を聞いてもよい。それは行政と協議したら出てくるのではないか。

<西口委員長>

事務局から意見はあるか。

<事務局主任>

観光・産業・自然とあったが、執行部の所管もあるので、例えば観光なら観光で絞る方が進めやすい部分があるのではないか。

<奥村委員>

観光でよいのではないか。自然でも産業でもスポーツでも農業でも、すべて観光・エコツーリズムなど全部1つにまとめているので、観光がメインでよいのではないか。

<西口委員長>

では所管としては「観光」とする。詳細は正副委員長で調整する。

10:43

(2) 行政視察について

<西口委員長>

事務局から説明を。

[事務局主任 別紙2に基づき説明]

<西口委員長>

5月7日から11日、14日から18日の間で都合の悪い日等はあるか。

<並河委員>

できれば金曜日は外していただきたい。

<西口委員長>

金曜日は外すことでよいか。(了)

<西口委員長>

視察目的は。どういう目的で行くかが大事である。効果的な成功例に重点を置き、他市での実績を考えて決定したい。鳥獣被害対策や森林税、ジビエの取組みも念頭においていただきたい。また、水害被害の軽減策として田んぼダムの取組みについても関心が高いところである。観光や地域農産物の振興なども考えられる。視察項目・場所等について御意見をいただきたい。

<藤本委員>

①これから亀岡で大事になってくるのはスタジアムを核としたまちづくりである。スタジアムでまちおこしができている事例、いろいろなショップが入ってまちの活性化に生かしている事例を先進地として見に行き、亀岡のモデルとして進めていく

ことが大事になってくるのではないか。成功事例に絞り込んで見に行く必要がある。
②ふるさと納税が4億円近くとなっている。宮崎県都城市は40億円ほどで日本一である。戦略や返礼品、どういう経済効果をもたらしているのか。山形県天童市、長野県飯山市もある。

<西口委員長>

産業建設の所管としてどうか。

<藤本委員>

ふるさと納税でどれだけ経済効果をもたらしているのかということである。また、返礼品として農業にも関わってくるので、産業建設に関わってくる。

③先日フラワーガーデンの対談がガレリアかめおかであったが、その時に北海道恵庭市が来られていた。花とガーデンのまちづくりを実際に見学しに行ってはどうか。

<木曾委員>

キャッチコピーを今後、まちづくりにつなげていこうとしている。キャッチコピーを実際に決めた後にどういうまちづくりをしているのかを見るのも1つの方法である。議会と行政がいろいろな調整をする時に参考になるのではないか。

<並河委員>

商店街の活性化について、今、買い物難民として地元到店がないと困っている状況がある。商店街がなくなると、まち全体が沈んでしまう。歩いて買い物にいけるような商店街で、がんばっているところがあれば行ってみたい。

<石野副委員長>

田んぼダムで新潟県村上市を見に行きたい。村上市はまちおこしにも成功している。

<藤本委員>

テーマが決まれば、その近辺で似たような取組みをしているところを絞り込んで行ってはどうか。

<木曾委員>

視察に行くのが目的ではなく、行った後にどう生かすのかが大事である。それを考えた上で視察に行かねばならない。昨年も藤枝市に行ったが、それがどう生かされたのか検証できていない。行きっぱなしではなく、後につないでいけるように、それを生かすという目的で行かねばならない。田んぼダムは大事なことであり、継続していかなければならない。そういうものを目的として絞り込んでいくのも1つの方法ではないか。

<西口委員長>

田んぼダムにしっかり取組んでいるのは新潟である。新潟はコメの産地でもあり、農業関係の視察も周辺でできるのではないか。その近くで絞るのも1つである。他がどうであれ、自分の家の田だけは田んぼダムをしようと考えている。水害のないまちづくりのため実績を見ておきたい。これは帰ってきてからの検証にもつながる。少数の農家組合でもよいので実績ができ、それがだんだん広がりをみせていくようになしかけというのは、大事である。

<藤本委員>

田んぼダムは全員の協力が必要であり、すぐ来年に導入ということにはならないのではないか。それより、スタジアムに入る商店もまだ決まっていない中、どういう商店を入れて活性化し、地域おこしをしているのかを皆で早急に勉強する方が大事ではないか。

<西口委員長>

スタジアムという1つの建物に商店街をつくるような事例はないのではないか。

<木曾委員>

スタジアムは京都府が進めていくものであり、スタジアムの中のいろいろな企画を行うのは市では無理である。周辺のまちづくりはできるかもしれないが、スタジアムの管理・運営は府が行うものである。あれを入れよ、これを入れよと言うのは無理である。スタジアムの維持管理費をペイできるように京都府が考えるものである。例えば亀岡の中小商店を配置するように言っても、難しい問題が出てくるのではないか。スタジアムにこだわらず、違う視点で、スタジアムを核としたまちづくりをどうするかということの方が大事である。

<藤本委員>

スタジアムを核としたまちづくりをしているところはないのか。

<西口委員長>

活性化しているところはあまり聞かない。

<並河委員>

北九州も全然であった。

<木曾委員>

いろいろなところに行ったが、仙台市くらいではないか。

<奥村委員>

仙台市は、そこまで地下鉄を入れて、市民の憩いの広場をつくっている。ただ、藤本委員が言われるような商店街等はない。スポーツの公園として、仙台市民が憩える場所としている。昨年、会派の視察で北九州の新しくできたスタジアムに行ったが、駅から徒歩5分である。ここには駐車場はなく、まちづくりよりは環境に配慮したスタジアムというコンセプトである。

<木曾委員>

北九州は公害の歴史もあり、その部分で取り組んでいる。少し違うのではないか。

<西口委員長>

村上市はいろいろな取り組みをしている。かなり前に会派の視察で行ったことがあるが、特徴的なまちづくりをしている。行動派の市民がおられ、村上市の活性化にかなり貢献されていた。そのようなことも一緒に見られるのではないか。

調整する時間も必要であり、3月定例会中には行き先と日を決めたいと考えている。

<木曾委員>

新潟県村上市にポイントを絞って、その周辺で調べることでしてはどうか。

<石野副委員長>

藤本委員の言われた山形県天童市のふるさと納税も、新潟から近く、よいのではないか。

<木曾委員>

地域産業をどうするかという視点から見てもよいのではないか。

<西口委員長>

入れてもよいのではないか。その他、新潟県近辺の取り組みで意見があれば、また言っていただきたい。ふるさと納税も産業建設に全く関係のない話ではない。亀岡市として参考になる話は、どんどん勉強してきて、こちらに反映させる目的をもって取り組むことが大事である。3月定例会中にはまとめたいのでよろしく願います。

3 その他

<西口委員長>

事務局から説明を。

<事務局主任>

次回は3月定例会の議案審査が予定されている。3月9日の午前10時から補正予算関係の審査を予定しているので、よろしく願います。

<西口委員長>

月例の活動について意見はあるか。これからはどんどん亀岡市内の視察も取入れていってはどうかと考えている。積極的に行動を起こし、議会が現場を見に行くというのは非常に大事なことである。

<木曾委員>

新清流会と緑風会が国土交通省に要望書を出しに行った。それはどういう目的で、相手がどういう反応であったのかを、議会として共有することが大事である。新清流会からも緑風会からも報告し、お互いに共有するのも大事ではないか。そういう機会を1回作ってはどうか。

<西口委員長>

市民に傍聴してもらおうというのも1つである。

<木曾委員>

いろいろなことをオープンにして聞いてもらい、共通した課題にしていかねばならない。そうすれば、本当に国を動かすことができるのではないか。

<藤本委員>

ダブルルートも保津川の開削もそうであるが、北陸新幹線のように、京都府の要望と亀岡市の要望とが違ってはいけけない。会派ごとに国土交通省に要望に行くのはよいが、議会として統一したものにしていかないと、それぞれが違うことを言っていては、何がしてほしいのか分からないということになる。議会として昇華させて、まとめて要求していくことが大事である。どういう内容で要望しに行かれたか、ぜひとも調整しておいた方がよいのではないか。

<木曾委員>

今度、知事選が控えている。誰がどういう訴えをされるか分からないが、その中にはダブルルートを公約に掲げる候補や、治水対策を考えてくれる候補もいるかもしれない。そういうことも大事であり、亀岡のまちをどうするのかということを実際に考え、議会として動くということが大事である。

<西口委員長>

同感である。我々もいろいろな要望を行ってきたが、行政の要望の内容を参考にし、全く違うような要望を行っているわけではない。桂川改修促進期成同盟でも今までずっと要望活動を行ってきたが、その中身を共有し、数多くの団体が行くことによって、気持ちが伝わる度合いが全然違う。47都道府県の中で真ん中以上の予算配分をもらえるような活動は大事であり、事細かに進めなければならない。

<木曾委員>

例えば、会派を超えて産業建設常任委員会で要望に行くことも1つの方法である。与野党を超えて亀岡市として要望すれば画期的なことである。石井国土交通大臣が公明党から出てもらっていることも合わせて考えれば、そういうことも1つの方法である。お互いの政治色を出さず、市民のために我々議員は選ばれているのであり、そういう考え方を持つことも大事である。また、個々の会派でいくのも大事である。いろいろな形でやっていくことが大事ではないか。

<西口委員長>

そういう広がりを見せることによって、最終、常任委員会で行く等、そういう形につなげていくことが非常に大事である。そうすれば、議会が会派を超えて市民の生

命・財産を守るために頑張ってくれているのだと市民にも伝わるのではないか。会派を超えてできることはたくさんある。議会の行動を示すことは非常に大事である。

<藤本委員>

議会として議長が中心になり、議長・市長・知事が意見を1つにして 経済界も一緒にになって要望していくようにしなければならない。途中でブレが出てきてはいけない。

<木曾委員>

議会基本条例の基本は、皆が議会としてどう動くかが大事である。それは市民福祉の向上のためである。軋轢や今までの経過より大事なものは、市民福祉向上のためにどう一致して力を合わせて勝ち取るかである。そこに集中しないと、議会が市民から信頼されないことになってくる。市議会議員の選挙はどんどん投票率が下がっている。そういうことに向かっているかねばならない時代である。

<並河委員>

政党としてのいろいろな考えはあるが、議会の活動として、皆で共有できることは、良いことは良い、悪いことは悪いで進めていけばよいと考える。我々の会派も、「他の会派が言っている自分のところは絶対に違う方向に行くのだ」ということは決してない。最近、良いことはどんどん会派を超えて一緒にするというのが市民の望んでいることであり、賛成である。

<西口委員長>

まさにそういうことである。議会の皆が一緒に行ったということを示すことにより、市民福祉向上のために取り組んでいるという姿を示すことができる。

<木曾委員>

委員長が決断すればできるのではないか。今までやっていないことをすれば、画期的なことになるのではないか。

<西口委員長>

そういう方向で、議会として大事なことは皆で取り組んでいきたい。要望のためには予算も必要であるが、できるだけ良い方向に向くように、亀岡市議会が少し変わってきたというインパクトが大事である。やはり行動で示さねばならない。

<並河委員>

全体的に、議員が何をしているのかが市民に見えない。

<西口委員長>

行っても、会派の独自の活動という形になってしまっている。議会としての活動とするなら、皆がまとまって動く必要がある。

<藤本委員>

各会派の要望の報告の場についてはどうするか。

<西口委員長>

月例で、理事者からの報告がない時がある。日程はこれから検討してはどうか。

<木曾委員>

その時に、執行部にも聞いてもらってはどうか。聞くだけでもよいので、一緒に参加してもらうことも大事ではないか。検討されたい。

<西口委員長>

実施するという意見が多いので、実施する方向でよいか。(了)

<西口委員長>

日程等については調整する。

散会 ～ 11 : 24